

Humboldt-Kolleg 2025 イメージ学シンポジウム開催（予定）と事前参加登録のお知らせ

DAAD 友の会 会員各位

2025年5月9日（金）午後～11日（日）、慶應義塾大学三田キャンパスにて、ベルリン・フンボルト大学を中心として展開されているエクセレンツ・クラスター Matters of Activity: Image Space Material (<https://www.matters-of-activity.de/en/>) を率いるホルスト・ブレーデカンブ教授とヴォルフガング・シェフナー教授、そして周辺の中堅研究者を招き、イメージ・文化研究を中核とするドイツの研究動向と最新トピック、およびその批判を自然科学から人文科学まで分野横断的に議論すべく国際シンポジウムの開催を予定しています。

2016年に東京大学で開催されたフンボルト・コレクに引き続き2度目の来日となるホルスト・ブレーデカンブ氏の業績は、わが国でも『ダーウィンの珊瑚』（法政大学出版局）、『モナドの窓』（産業図書）などで幅広く知られており、Bildakt（像行為）という新しい文化概念の提唱者として、世界的に著名な美術・イメージ史の研究者です。ヴォルフガング・シェフナー氏は2015年刊行の『思想』1090号に掲載された「デザインへの転回：デザイン精神における学問革命」など、国内での業績紹介は限定されますが、物質の認識論や造形が生み出す知のアーキテクチャを専門とする知識と文化の歴史分野においてドイツを代表する卓越した研究者として知られています。

本イベントはアレクサンダー・フォン・フンボルト財団の助成金（Humboldt-Kolleg）を受け、開催予定校となる慶應義塾大学ほか、過去2度のフンボルトコレクを企画・共催した東京大学表象文化論研究室、東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター（DESK）、東京大学共生のための国際哲学研究センター（UTCP）のほか、科研費・基盤研究（B）「「一般リズム学」を地平とする統合的思想史の構築」による共催で開催する準備を進めています。

また、科研費・基盤研究（B）「感情と空間をめぐる比較文化史——新現象学の「感情空間」概念の批判的再検討」とのコラボレーションも予定されております。

現在、本イベント開催に係るフンボルト財団への開催申請の都合から、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団元奨学生ならびにドイツ学術交流会元奨学生の皆様、そして日本独文学会ならびに表象文化論学会会員の皆様を中心として、事前参加希望登録のご案内をお送りさせていただいております。

会議は英語とドイツ語の2ヶ国語を使用して行い、ドイツ語の場合は和文翻訳資料を配布致します。また、一部日本語のセッションも予定されております。

【登壇予定者】（順不同）

ホルスト・ブレーデカンフ（ベルリン・フンボルト大学）
ヴォルフガング・シェフナー（ベルリン・フンボルト大学）
ザビーネ・マリエンブルグ（ベルリン・フンボルト大学）
カティア・ミュラー・ヘレ（ベルリン・フンボルト大学）
フェリックス・イエーガー（コートルド美術史研究所）
石原あえか（東京大学）
小田部胤久（放送大学）
田中純（東京大学）
糸川麻里生（慶應義塾大学）
縄田雄二（中央大学）
久山雄甫（神戸大学）
坂本泰宏（信州大学） ほか

【参加費】

事前登録者 無料（予定座席数に上限があります。）

フンボルト財団への申請のため、現時点でご参加を予定頂けます方は、お手数ですが
2024年10月30日（水）までに以下のリンクよりご登録をお願い申し上げます。

<https://forms.gle/6Haa7HpHerwDaz7G6>

現時点では大変恐縮ながら博士課程以上の方のみを対象とさせて頂いております（学部生と
修士課程の皆様には後日、改めてご案内させていただきます）。

ご登録くださいました方には年明け頃までにより詳しい開催情報とプログラムを改めてご連絡
差し上げます。本イベントに関するご質問などは坂本泰宏（sakamo.de@gmail.com）まで
ご連絡お願い致します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

どうぞ宜しくお願い致します。

フンボルトコレーク企画チーム一同